

令和2年1月21日

八戸市議会
議長 壬生 八十博 様

屋内スケート場・スポーツ文化施設建設
特別委員会
委員長 岡 田 英

視察実施報告書

本委員会は、次のとおり委員を派遣し、調査視察を実施したので、平成31年度行政視察等実施要領第2（3）の規定により報告します。

1. 日 時 令和元年11月13日（水）～11月15日（金）
2. 場 所 ①福岡県久留米市
久留米市シティプラザについて
②福岡県春日市
春日市総合スポーツセンターについて
3. 調査結果概要 別紙のとおり
4. 派遣委員 岡 田 英
小屋敷 孝
立 花 敬 之
五 戸 定 博
伊 藤 圓 子
久 保 しょう
山之内 悠
吉 田 洸 龍

久留米市シティプラザ運営事業について

【対応者】

久留米市 議会事務局	議事調査課	調査チーム	平田 妃奈
市民文化部	久留米シティプラザ	次長兼総務課長	田代 理
		総務課技術主査	草場 文博

【経緯】

久留米市では、かつて久留米市の文化芸術の振興を担っていた久留米市民会館の老朽化、耐震性、バリアフリー、機能不足等の問題により、新たな文化施設の建設が検討されていた。また、市内には久留米大学病院等の大規模な病院が多くあり、大学やホテルで学会が開かれていたが、より大規模な学会を行うことのできる施設の要望もあった。そのような中、市街地にある百貨店が閉店し、中心市街地の求心力が低下すると、撤退跡地を有効活用できないかという考えが高まりをみせるようになった。その後、市街地再開発事業と久留米市直轄の事業を合わせ、中心市街地の賑わいを創出する機能を持った複合型施設の建設を計画し、平成28年4月に「久留米シティプラザ」として開業した。

【費用と財源】

もともと公園として使用していた市の土地と市が買い取った百貨店跡地を合築し、シティプラザを建築した。百貨店跡地は95%を市が買い取り、のこりの5%をテナントが所有という形となっている。整備費は再開発事業で約121億円、直轄事業で約55億円の計176億円であるが、交付金や合併特例債などの国の支援制度を活用することで市の実質負担額は約51億円に抑えられた。

【基本理念】

・賑わいと憩いが調和する「文化」・「活力」の創造空間

中心市街地にあるので賑わいはもちろん大事なテーマであるが、周りの商店街やアーケード等周辺環境に調和した憩いの空間も目指したとのことであった。

【基本機能】

1. 広域交流促進の拠点

ホールや展示室、会議室等を備えた久留米シティプラザができたことで、全国規模の学会が開催できるようになり、各種分野の方々の広域交流の拠点施設となっている。

2. 賑わい交流の拠点

以前は屋根のない公園のような広場であったが、屋根を付けステージを整備することで天候や季節に左右されず安定的にイベントを開催できる憩いの場として活用できるようになった。

【施設の概要】

1. ザ・グランドホール

座席数は1,514席。赤のレンガ調の木材を使用。オーケストラ等に利用。

2. 久留米座

座席数399席。和のモチーフで音は響かない仕様となっており、歌舞伎や演劇等に使用。

3. Cボックス

座席数144席。座席は階段状だが、平らにして使うことも可能となっている。

4. 展示室、会議室

各種展示会で使用。それぞれ3分割利用も可能。また床から給排水できるようになっており、水を使う展示も可能となっている。会議室はそれぞれの部屋にプロジェクターを設置している。

5. 和室、スタジオ

和室は8畳×3間。襖を外すと30帖の大広間となる。茶道、華道、能などの古典、伝統芸能の稽古にも対応している。

スタジオは計4室。担当から概要説明を受けた部屋であり、小会議にも使用できるほか、ダンスやバレエの練習に適している。

6. 六角堂広場、カタチの森

六角堂広場は膜屋根を設置した全天候型の広場となっており、広さは約1,300平方メートル。昇降ステージや給排水設備、電気設備も充実しており、ラグビーのパブリックビューイングをした際には約1,200人が入ったとのこと。

カタチの森は、子育て世代向けのスペースとなっており、絵本作家のtupera tupera氏がプロデュースしている。

7. 1階の商業施設（権利床）

1階の外周部に商店街に面した9区画で地権者の商業施設（権利床）が営業をしている。1店舗空きがあったが、年明けには営業を開始するとのことであった。

【組織体制】

市の直営施設であり、行政職員10名、専門スタッフ職員30名、任期付き職員7名、嘱託職員1名、計48名で構成しているが、オリンピック等の影響で専門スタッフが足りない状態であるとのこと。

【来場者数】

(人)

施設名	平成28年度	平成29年度	平成30年度
ザ・グランドホール	117,835	136,877	139,570
久留米座	21,976	24,918	25,196
Cボックス	16,337	8,678	11,319
展示室	22,195	14,149	10,434
和室、会議室、スタジオ	38,962	49,248	51,593
六角堂広場	145,635	204,542	150,075
共用スペース利用	148,146	113,279	140,398
コンベンション利用	23,272	31,144	24,061
合計	534,358	582,835	552,646

※年間目標来場者数は612,800人であり、過去3年目標に達してないので、集客が課題。

【施設稼働率】

(%)

施設名	目標稼働率	平成28年度	平成29年度	平成30年度
ザ・グランドホール	75	79.7	77.6	83.6
久留米座	68	68.9	58.1	67.1
Cボックス	72	54.1	54.9	61.3
六角堂広場	50	69.1	69.5	60.8
展示室	80	66.7	66.4	70.1
会議室	80	79.5	82.8	84.6
スタジオ	70	48.8	54.0	59.4
和室	64	40.9	40.6	32.7

※スタジオ、和室は用途が限られるので、稼働率がなかなか向上しないのが課題。六角堂広場も平日の昼など思った以上に稼働が伸びていないとのこと。

【主な成果】

- ・専門調査機関による目標来場者数612,800人が来たと仮定して算出した経済波及効果は、約15億円。シティプラザ単独では収入1.5億に対して支出8億円とプラスではないものの、地域経済にはプラスの効果をもたらしているのではないかと思われる。
- ・開業後は、これまで久留米市で開催できなかった演劇やコンサート、ミュージカルを開催することができるようになった。

【主な課題】

- ・平成30年度の学会、大会、展示会の開催実績が平成29年度より下回っていることから、継続的、積極的な誘致活動の必要性を感じているとのことであった。
- ・来場者数、施設稼働率が目標に達してない面もあるところから、今後も努力する必要性があるとのこと。
- ・持続的な運営のため、財政負担を縮小させる必要があり、収支改善の必要がある。
- ・専門的技術を持った人が慢性的に不足していることから、人材の確保、育成が課題である。

【久留米シティプラザ応援プロジェクトの詳細】

個人から一口1万円以上の寄付を募っており、寄付してもらった人の名前入りのプレートを入口付近の壁に掲示している。これまで延べ約2,000名の寄付があり、現在でも年30～50名の寄付があるとのこと。寄付金は防音幕等の施設改修等に利用しているとのこと。

【所感】

当市では、既にポータルミュージアム・はっちやまちにわといった文化交流施設が運営されているものの、集客のため、市民のためにどのようなイベントを開催するかという継続的な経営努力が必要であり、その点は久留米市でも共通の課題であると感じた。それとともに収支状況の改善というハードルの高い課題も共通認識であった。結局このような施設は、建設後、どのようにして市民を交えた交流促進ができるかが鍵であると感じた。ただ、久留米シティプラザは、交流施設とイベントホールが複合した施設であり、コンサートやイベント等を開催する限りにおいては集客が著しく減ることはないと考えられ、市民の憩いの場となるようなイベントの企画と広報の重要性を再認識した。

春日市総合スポーツセンターについて

【応対者】

春日市 議会事務局 主任 高山 則彦

春日市 健康推進部 健康スポーツ課 主任 岩元 慎平

【背景と経緯】

春日市では、昭和48年に総合スポーツセンターの前身である市民スポーツセンターが建築された。もともとスポーツ、運動のニーズは高く、多くの市民に利用されてきたものの、老朽化等が進み、また東日本大震災を契機に防災意識が高まったことを受け、災害に強い施設の見直しや検討の要望が多く上がっていた。そこで、平成22年から基本構想の策定が始まり設計、工事を経て、平成28年4月9日に開館した。

【施設の概要】

1. 体育館

構造：鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）

階数：地下1階、地上3階

延床面積：20660.95㎡

構成施設：メインアリーナ（51×38）㎡、サブアリーナ（35×38）㎡、トレーニング室、フィットネス（2室）、卓球場（計20台）、武道場（剣道、柔道各2面）、弓道場（近的5人立）、会議室

2. 屋外施設

- 屋外競技場：約11,000㎡（サッカー1面、(68×105)㎡
- テニスコート：6面（1面はフットサル兼用）
- 相撲場：1面
- ウォーキング・ランニングコース：巾3.6m、延長660m
- 駐車場：313台
- 駐輪場：180台

3. 施設の特徴

○エントランスホール

イベント開催時などの入退館者のたまり空間を確保し、安全性を高めると共に、通常時は利用者のくつろぎの場となるように計画している。

○メインアリーナ

照明をLEDとし、ランニングコストを低減した。2階観覧席は約1,000席あり、ベンチは木製、背もたれを作らないことで、災害時の避難場所として対応可能とした。

○卓球場

壁色を黒とすることで、視認性を高め競技がしやすい空間とした。また、各室可動間仕切りで分割することで、多目的利用が可能。

○武道場

色彩は木材及びモノトーンで、武道館らしさを表現した。

○弓道場

天井、上部壁を黒っぽい色調とすることで、太陽光の反射を制御した。

○省エネ・環境負荷低減

照明のLED化、太陽光発電の導入、トイレへの雨水利用など。

○防災機能

大型非常用発電機の導入、井戸やかまどベンチ、マンホールトイレの設置。

○避難所機能

災害時の物資の集配機能を有したメインアリーナ、約900人を収容可能なアリーナなど

【運営状況】

1. 指定管理

指定管理制度を導入し、総合スポーツセンターの管理運営を春日まちづくりパートナーズに委託している。

2. 工事費（総事業費）

総額69億円（体育館約57.3億円、屋外施設約9億円、備品約1.7億円）

○体育館内訳	建築	4,069,341,240円
	電気	651,000,000円
	機械	1,011,150,000円
	合計	5,731,491,240円

○備品内訳	事務	90,000,000円
	防災	約17,000,000円
	スポーツ	約63,000,000円

3. 財源

起債	約3,500,000,000円
基金	約1,500,000,000円
一般財源	約1,100,000,000円
補助金等	約800,000,000円
(内訳)	学校施設環境改善交付金 約440,000,000円
	スポーツ振興くじ助成 約70,000,000円
	地域の元気臨時交付金 約290,000,000円

4. 維持管理費（市負担分のみ 平成30年度決算額）

(1) 管理業務委託	151,000,000円
(2) 修繕・工事費等	341,280円
(3) 備品購入	1,440,072円

【春日市が抱える主な課題】

- ・ 駐車場が狭いため、大規模大会実施時や事業が重複した場合に、道路が渋滞したり、駐車場が満車になる。
- ・ 令和2年度に予定している温水プール大規模改修工事の内容の検討、長期閉館に伴う競技団体への対応、代替施設の調製等が必要。

【所感】

当市の長根体育館は築30年以上経過し、修繕だけでは対応できない状況となっており、建て替えも含めた今後のあり方が求められている。そのような中で、今回、春日市の総合スポーツセンターを視察できたことは、今後の特別委員会の設立趣旨に合致し、大いに実のりのあるものであった。スポーツセンター自体の大きさにも驚いたが、平日にも関わらず多くの市民が利用していることから、市民のニーズにも合致していることを実感した。また、防災拠点施設として備蓄や搬入経路もしっかり整備されており、地震が多い当市も見習うべき点が多くあった。当市では、近年屋内スケート場やF L A Tアリーナ等のスポーツ施設が相次いで建設されているため、長根体育館の建て替えはまだ計画策定まで至っていない。しかし、今後建設が具体化したときに、今回の視察で見た施設と比較検討できることは、当市にとって有益なものとなるに違いない。